

あらかわ粋・活計画 計画の7つの柱

荒川区は、町会・自治会の活動が活発に取り組み、私たちの暮らしに欠かせない防災、防犯、清掃、リサイクルなどを担っています。困っている人がいると「ほっとけない」と思う下町人情あふれる人たちも多いまち、荒川区の地域力を活かし、『誰もが安心して暮らし続けられるまち～お互いに支え助け合う「地域力」のあるまちを～』をめざし、一緒に取り組みましょう。



- ①心のバリアフリー体験学習の推進
- ②テーマ型ふれあい粋・活サロンの推進
- ③誰もが活動・活躍できる場づくり
- ④一人ひとりが自分らしく生きることを支える

★様々な人々が住む荒川の街。互いの違いを認め合い、自分らしく生きる「居場所」があり孤立した人をつくらぬ地域づくりを進めます。



- ①多様な団体・企業、専門機関による情報交換会やワークショップの実施
- ②多様な立場のコーディネーターによるコーディネート
- ③ボランティア団体・地域団体等の活動紹介

★地縁型団体×テーマ型団体×企業×商店街×福祉医療専門機関×教育機関×行政などさまざまな立場の団体、機関が、縦割りの壁をはずし、ネットワークをつくり、支え合う仕組みづくり、課題解決のためのプログラムづくりを取り組みましょう。



- ①災害ボランティアセンター強化に向けた取り組み
- ②被災時要配慮者支援の取り組み

★災害時、減災を図り、命をまもるためには、自助、共助、公助が不可欠です。大災害時、全国から駆け付けたボランティアの力を活かすためには、速やかに災害ボランティアセンターを設置し、コーディネート機能を発揮することが求められます。そのためには、平時から準備、訓練とネットワークづくりが必要です。



I
ご近所で助け合える
まちづくり

II
一人ひとりを大切に
しあうまちづくり

III
若い世代が、地域で
活躍できるまちづくり

IV
協働できるまちづくり

V
地域力を活かす
情報の発信

VI
災害時に助け合える
まちづくり

VII
地域福祉活動を推進する
ための社会福祉協議
会の役割と体制づくり

- ①町会・自治会の活動を、より多くの住民に伝え、広げる
- ②ふれあい粋・活サロンをより身近な居場所に
- ③SOSを発信し助けられる力とSOSに気づき助ける力を育てる

★助けたり助けられたりの「お互い様の活動」が残っている荒川。町会・自治会の活動をより多くの人々に周知し、参加する住民を増やし活動を広げましょう。
★町会・自治会、民生・児童委員、高齢者クラブ、ボランティアなどが協働で取り組む「ふれあい粋・活サロン」の活動を通し、顔と顔がみえるつながりをつくり、困った時に、気軽にSOSを出し合い、気づき合い、助け合える地域福祉の活動拠点にしていきたいと思います。

- ①学校等でのボランティア体験学習
- ②子育て世代が参加できるボランティアプログラムづくり
- ③若者が参加したくなるボランティア・地域活動の創設

★次代を担う子どもたち、若者たちが、自分の住む街・荒川に関心を持ち、地域活動やボランティア活動に参加するための新たな活動プログラムづくりに取り組みます。



- ①区民が求める情報提供の在り方
必要な情報を必要な人に届ける
仕組みづくり



★インターネットの活用、情報誌、掲示板、口コミなど色々な方法で情報発信！

区民ひとりひとりが「いきいき」と「粋」に活動する「粋な活動計画」という意味を込めて「あらかわ粋・活計画」という名称にしました。

